

## 活動テーマ

地元農産品・観光資源による地域内活性化と都市部との人的交流推進

鳩山町須江・大橋・泉井地区 日本大学

### 1 活動目的

須江・大橋・泉井地域で生産される農産品には地域特性に関する情報が社会で十分に浸透しておらず、その魅力が他地域に知られていない状況となっている。そこで、地元の観光資源などと合わせて、須江地区の魅力の発見を通じて、地区の魅力おこしに取り組む。具体的には、地元の農産品やそれらを組み合わせた名産品を開発し、地元の伝統文化による観光資源を発掘し、交流人口を増加させ、地域への移住定住につながる魅力開発を行うことを数年間に渡る活動の長期目標と考えている。

### 2 活動地域の現状

須江地域で生産されるコメ、麦、大豆、あんずは農協や直売所へ直接卸しているため、地域の特徴が他地域に知られていない状況となっている。また、須恵器など歴史的資産もあり、有機的連携の可能性がある。また、上熊井農産物直売所が本格的に稼働しており、地元の情報拠点となっている。本年度は現地活動が再開されたことから、地域の皆さんとの交流を強化して、上熊井農産物直売所を軸に情報発信することが重要だと考えられる。

### 3 活動内容

現地活動及び現地の皆様との交流及び地域支援活動については、須江地区地域一斉草刈り参加(7月10日)、鳩山町立亀井小学校訪問(9月28日)、オンラインミーティング(10月19日)、黒大豆の脱穀活動の参加(12月17日)、地元食材を使った調理案の試食会の実施(12月21日)、「まなびしごとLab」の風間崇志様を迎えての支援隊活動に関するディスカッション(1月11日)の活動を行った。なお、10月頃に行われる予定であった須江地区における秋の収穫祭は新型コロナウイルス感染症拡大期にあったため中止となった。また、2月中に行う予定であった鳩山町立亀井小学校の小学校の児童さんへの地元食材を使った特産メニューを試食して頂く予定であったが、日程調整ができず、翌年度に実施する予定である。



## 4 成果

現地活動が2年間できなかつたものの、活動再開時に須江地区の皆様にも暖かく迎えていただいた。現地活動ができて初めて訪れた上熊井農産物直売所でもふるさと支援隊活動に理解をいただき、私達の要望にも気さくに応えていただいた。亀井小学校の先生方も、ご多忙の中、地域支援活動について、ご理解をいただき、児童の皆さんに協力を頂いて、特産メニューの提案を多く頂いた。児童の皆さんが提案してくださった、大豆の代用肉を始めとしたメニューはゼミ参加学生の発送を上回るものであり、大きな参考となった。

現地の皆さんとの連携を通じて、上熊井農産物直売所を発信拠点として、どのような特産品を出してゆけばよいか、更に地元の魅力をどのような形で情報発信してゆけばよいかという視点で、活動を進めてゆく方針ができたと考えられる。また、須恵器やアンズなど、地元の潜在的資源を掘り起こして、直売所を通じて魅力を広げることも今後可能になるのではないかとの手応えも得ており、昨年度調査したeコマースにも展開してゆくための基盤を作ることができたのではないかと考えられる。

## 5 課題

現段階での本地域の課題については、近郊農業の付加価値や農産品の生産量の問題、地域内の連携の問題、地域活動の制約と活動方向性に関する問題についての3つを挙げる事ができる。近郊農業の付加価値に関する問題については、都心部へのアクセスが良いことはチャンスでもあるが、新型コロナウイルス感染症のもとで家庭内の農産品消費にウェイトがかかる現状で、現地訪問による体験を通じて、ファンになってもらうことで、価格競争とは違う関係性から付加価値を理解していただく必要があることがわかった。地域内の連携については、一昨年度の須江・大橋地区の活動にとどまらず、泉井地区の亀井小学校との連携や熊井地区の上熊井農産物直売所との連携に向けて、調整を進めたが、更に関係者の交流を深めることでさらなる新しい取り組みができる可能性がある。地域活動の制約と活動方向性に関する問題については、現地活動が依然として新型コロナウイルスの感染状況で中止されることや地元への訪問回数が少ないことでの地元の皆様との意思疎通が十分できていないのではないかと懸念がゼミ内で議論された。



## 6 次年度以降の計画

来年度は地元食材を特産メニューの現地での販売を目標としつつ、ホームページなどの情報発信力の強化、更に黒豆の生産拡大の支援活動を行いたいと考えている。あわせて、亀井小学校とも交流を強化して、地域全体のレベルでの町おこしに広げてゆきたいと考えている。昨年度取り組んだインターネットを通じた活動がさらに広がることを考えると、現地訪問と仮想空間の融合による地域おこしが重要であると考えられる。農産品の付加価値はコモディティ化が進む農業で、希望の持てる農業を実現するには、地元体験を通じた信頼感を醸成して、高付加価値化を進める必要がある。鳩山町は伝統的な側面と、新しい側面がある。更に、あんず栽培加工組合は潜在的な伸び代を持っており、現地資源の連携を深めて、「街の幸福度ランキング」全国一位の魅力を体験してもらえよう進めたい。